

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270400759		
法人名	社会福祉法人 祥仁会		
事業所名	グループホーム貝津		
所在地	長崎県諫早市貝津町2239-2		
自己評価作成日	平成 28 年 9 月 5 日	評価結果市町村受理日	平成28年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php?action=kouhvu_detail_2016_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=4270400759-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php?action=kouhvu_detail_2016_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=4270400759-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	平成 28 年 10 月 27 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①家庭的な雰囲気の中、生活を送るこにより、穏やかに安心して楽しく暮らすことができるよう支援していきます。ご家族がいつでも、気軽に立ち寄れる環境及びゆったりとした空間を構築していきます。又日常生活の中で自立支援に向けて、出来る事を無理なく実施していきます。
②グループ中核病院である西諫早病院(協力病院)との連携を密にし、入居者の健康維持に努めます。
③今年はホームの菜園において花、野菜等を入居者と共同で栽培し、収穫祭を行い「食」も楽しんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、国道沿いで交通の利便性もよく高速バスなどを利用して、遠方より家族が訪問をしている。同法人内で職員の異動はあるが、経験豊かな職員の指導により、入居者への安定した支援に繋がり、入居者は職員の支援の下、自立した生活を日々穏やかに過ごしている。管理者は、職員の優遇を考慮して、勤務における有給休暇の取得や業務内のスタッフ会議などに取組み、残業のない働きやすい職場環境と親睦を深め、職員とより良い関係を構築している。又、家族との協力関係及び信頼関係の構築を心掛けて、「しあわせ新聞」の発送と「よろこび壁新聞」の掲示や家族会の実施及びすべての家族の予定を事前に伺い運営推進会議への参加を依頼している。その事でホームの取組みへの理解と協力を得ている。職員は、研修での学びを実践に繋げて入居者本位の支援に努めている。家族は、入居者の介護度の低下に伴う悩みを抱きながら、入居の継続を願い職員の温かい支援に日々安心を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念を目に付く所に掲示し、職員全員が同じ意識を持って、同じケアが出来るよう努めている。	職員は、共用空間に掲示してある介護理念を業務の際に確認しながら入居者の支援に取り組んでいる。入居者への言葉かけや感染症対策及び事故防止についての職員目標を掲示したり、会議で検討している。職員は、業務において意識すべき文言を確認しながら、自らの職務の向上と努力を惜しまず、入居者との共存体制の支援と家族への信頼関係に努めている。	ホームの人事は、経験豊かな職員の退職及び同法人内の職員異動により、業務に支障なく転倒事故もない確かな支援を取組んでいる。職員の入れ替わりに伴い、理念の実践状況の振り返りに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	避難訓練では地域の消防団、地域住民へ参加を呼びかけている。 実習生、見学者も積極的に受け入れボランティア団体も新たに増え行事以外でもお願いしている。	ホームは、地域の小学生の社会科見学を保護者同伴で受け入れ、入居者と親睦を重ねる疑似体験などを学んでいる。訪問後に、生徒達からのお便りを掲示してある。自治会の加入に伴い回覧板による情報も得られる。また、消防署立ち合いの避難訓練への参加を広報誌で呼びかけるが、現状のところ参加者はいない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生の社会科見学では子供達と保護者の方へ、入居者様の生活スタイルを知って頂き、質疑応答を含め交流する中で理解を得ている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとの開催で議題はホームと関連して報告している。参加されない家族へも資料お渡ししてサービス向上に取り組んでいる。	運営推進会議は、地域の消防分団員や民生委員が参加し独居情報及び法人内の他事業所の職員の震災支援報告など双方向に話し合っている。管理者は、半期の事故報告を表にして報告したり、それぞれの家族が参加できる予定を伺い会議に参加して頂く様に考慮している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	さわやか相談員の訪問。 運営推進会議等での情報の共有、相互に連携し協力体制を構築している。	管理者は、運営推進会議の報告書を持参して、介護保険の更新手続きやサービス提供加算の問い合わせで直接、市職員との連携を確保している。又、さわやか相談員を受け入れて、入居者の思いの聞き取り内容を報告書により、伝えて頂き連携に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会への参加。 身体拘束委員会の取り組みの中で、特に言葉による拘束「ちょっと待って」等、行動を抑制しないよう対応している。	職員は、身体拘束をしないケアを意識し、入居者の意向に沿った行動や出来ることを焦らずしっかりと寄り添い日々の生活を支援している。又、研修での学びを実践に繋げて「良い言葉かけ・言っはいけない禁句」を掲示で確認している。入居者の深夜の行動は、布団に鈴を付けて転倒に留意し、見守りの成果は転倒事故の軽減に繋がっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加。 言葉の虐待では命令的、高圧的な言葉声かけには注意し、身体的な虐待も皮下出血等あればご家族へ報告し、不信感を与えないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の勉強会に参加したり、法人内包括支援センター職員による説明会等で、知識習得に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約終結には必ずホームに来設して頂き管理者より説明を行い、ご家族の意向、問題点等十分に傾聴しご理解頂けるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等ケアプランの更新あればご意見、ご要望確認している。運営推進会議へご家族に交代での出席お願いしている。年1回家族会開催し意見交換の場を設けている。	管理者は、各家族の予定に合わせて運営推進会議に参加して頂ける様に表を作成して出席して頂き、介護計画の更新時に家族の要望などを聞き取り「本人・家族の意向シート」の内容を介護計画に反映している。又、家族会開催や会議への参加でホームに訪問して頂ける様に考慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回スタッフ会議を開催し、職員各自より意見を出し話し合っている。問題点あればカンファレンスを行い、情報を共有し解決している。月1回法人の全体会に管理者参加している。	管理者は、職員と業務の協力関係を持ちながら、スタッフ会議で疑問を投げかけ「一人一言」の意見を改善に繋げている。又、働きやすい環境改善に努めて、有給の取得を工夫している。職員は、誤薬予防の工夫や入居者のケアへの一貫性に努め、緊急の話し合いを行い業務の再確認をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員から意見、要望を収集し業務改善しながら人間関係や家庭での問題等も含め働きやすい環境を作っている。年2回自己評価表提出している。意向調査も実施。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市内グループホーム連絡協議会の研修会、講演会と法人内の勉強会等に参加し、報告会を行い職場で生かせる所は対処している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム連絡協議会へ入会し交代で勉強会も参加行い、他事業所とも交流を深め意見交換など行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、本人とご家族と会話する場を設け、要望、改善してほしい点等伺い、添えるようなサービスに努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム内の見学を受け入れ、案内の実施。入居に際し利用者、ご家族の不安を取り除き、要望を出来るだけ受け入れるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望や相談に来られた方の意見や要望を傾聴し、職員とご家族が利用者へ一致した対応が出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩で、様々な困難、苦勞を乗り越えられた方々であり、残りの人生を共に生活する、共生を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の新聞配布、壁新聞掲示の実施。ご家族面会時に近況報告等、コミュニケーションを図り生活全般に安心できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活歴を知り想起することで、昔の話をしたり忘れないよう接している。ご家族だけでなく知人、友人、親戚にも再会して頂けるよう努めている。	職員は、家族との関係性を最も大切に意識して、利用料の支払い時に訪問して頂く様に配慮している。又、入居者の家族の写真を居室に掲示すると共に、家族の名前を日常的に会話の話題にして忘れない様に支援している。お元気な入居者は、親戚や家族の方と外出を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自ら会話される方は少ないが、職員が間に入り会話の場を作り関わり合うことが出来るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	築いた関係性を大切に、次に繋がるように支援しながら、情報を共有していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や訴え、行動等カルテに記録し伝達ノートを活用したり、月1回のスタッフ会議時、入居者個々の対応について検討している。	職員は、入居者の日常的な状況を常に見守り、寄り添いながら言葉かけの支援を試み思いの把握に努めている。又、入居者に身体的負担をかけない様に無理をせず、生活の中で気分転換を図る支援に繋げたり、家族の面会の機会をより多く持てるように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話の中で生活歴や表情の変化、利用者の気持ちを察しながら家族とのコミュニケーションも大切に、統一した対応を心がけている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日朝食後バイタル測定の実施、個々に話しかけ体調確認をしている。夜勤の申し送りも出勤者が揃い、情報収集し早期変化に気づけるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時、日常生活の状況説明行い担当職員が中心となって統一したケアが出来るよう介護計画に反映し支援している。	職員は、介護計画の援助内容に沿った支援を実施して、日々の状況や血圧・体温などを記録して、その経過を毎月末に評価している。又、スタッフ会議で「みんなの一言」として意見を集約して、失禁のない入居者の排泄状況の変更などを試みている。介護計画の見直しは、3か月を目途にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテに日常生活の様子を記載し業務日誌に転記し申し送る。毎日、介護計画にも実施状況を記入し、各担当で毎月評価を行い、変化見られれば随時見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況把握の中で課題が見つければ職員間で話し合い評価まで行う。支援の見直し介護計画へも活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昔馴染みの方の面会、姉妹での外食や少人数で個々が食べたい外食計画など家族の協力もあり実施している。包括支援センター、居宅支援事業所、法人の専門スタッフとも協力を得ながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居説明時、当法人グループの病院受診になっても問題ないか家族に確認行う。近隣にあり救急病院でもあるので安心されてる。専門医院は往診で対応している。	職員は、入居者の受診における体力を考慮して、かかりつけ医の看護師及び薬剤師に相談できる関係性を保ち、服薬の加減による体調管理に努めている。歯科診療は、必要に応じて往診を依頼した。眼科など他科受診は職員の引率及び家族の協力を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当法人グループの病院や専門職との関わりを持ち、情報交換、相談等行い支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリー作成し情報交換に努め、医療機関とスムーズに対応出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	面会時等近況報告行い、家族に事業所で出来ること、出来ないことを話し専門スタッフとも相談し出来る限りの支援に取り組んでいる。	職員は、入居の際に看取りをしない方針を家族に説明しているが、常に入居者一人ひとりの日常の変化に配慮して、医療との連携を迅速に取るように早期発見を心掛けている。職員は、重度化に至った場合の家族の意向をまとめて頂き、勉強会や会議においてできることへの支援体制を考慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置。 救急搬送訓練の実施。 夜勤帯は一人体制のためオンコール職員も決まっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防署、警備会社、今年は地域の消防団3人と合同の避難訓練を年1回行い指導して頂き、定期的に自主訓練も年4回実施している。	職員は、消防署立ち合いの訓練を実施の際、事前に近隣へ広報紙を配布して参加を呼び掛けている。又、警備会社及び地域消防団の参加もあり、ホーム内を知って頂く事で更に、協力関係も構築している。定期的な電源プラグの点検や自主訓練の実施で職員の防災意識の強化に繋がっている。備蓄は整えているが、消費期限の確認及び自然災害に向けた対策と訓練の実施に至っていない。	近年の気象環境の変化による、豪雨・台風、地震などの自然災害を想定した話し合いやマニュアルに基づいた訓練を実施する事で職員の防災意識の共有を図り、早急な入居者の安全確保の対応及び、災害対策用備品の整備の他、災害用チェックシートの活用やハザードマップの入手などを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の想いを尊重し、思いやりのある言葉を使うよう全職員心がけている。	職員は、入居者一人ひとりの潜在能力及び残存機能を引き出す意味でも、褒めたりして応用的な対応で入居者のできることへの言葉かけを心掛けている。職員トイレには、「言ってはいけない禁句」「良い言葉かけ」の文言を掲示して、振り返りに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から入居者の表情を観察し、コミュニケーションを取りながら、本人の希望、想いに気づけるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の外出時等一緒にでかけたり、畑が気になり外に出たいときは、自由に庭に出てもらってる。外出時は家族に協力を得ながら、季節折々の花見、外出に出かけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用し毛染めしたり、入浴日に合わせ理容師資格持ち職員によりカットを実施している。外出時は室内着から着替え出かけるよう心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員もコミュニケーションをとりながら入居者と同じ物を食する。旬の食材を取り入れ季節感を感じて頂く。おにぎりにしたり食器を変えたりと食欲が出るように工夫している。	入居者の食事の介助の必要性もあるが、具材の名前を言葉にして食欲を促しながら職員も一緒に和やかに食事をしている。入居者一人ひとりの食事の自立を促しながら、時間をかけてトロミや刻みの他、水分補給を試行錯誤に取り組んで自分で食べることを大切に支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	禁忌食、トロミ付きカット食、大盛り、少なめ、おにぎり等、多種多様だが個々に合わせ提供している。夏場は飲水としてポカリスエットや手作りの紫蘇ジュース等、お茶以外のものも提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に口腔ケアを実施し、歯間ブラシの使用と仕上げも行っている。義歯消毒は週2回行い、歯科医の往診もお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせ訴え時は付き添い、定時で声かけ誘導を行っている。自力での着脱が不十分な方には一部介助している。	職員は、入居者の排泄状況をチェック表に記載して常に把握している。入居者の排泄状況に応じた、リハビリパンツや布パンツを使用して、排泄時の言葉かけで自立排泄を心掛けている。入居者の排便は、必ず確認する事で便秘がない様に留意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事野菜を多く取れるように心がけ、便秘者は排泄チェック表を使用し確認する。下剤が必要な方には調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴で当日、体調不良や気分がのらず拒否あればチェック表を使用し申し送り、無理なく実施している。 入浴時間は入居者との語らいの場でもあり、皮膚の状態が異常あれば早めに対処する。	入浴支援は、週4日(月・火・木・金)の中で入居者一人当たり週2回の入浴をしている。入居者の身体の清潔を大切に清拭や失禁時の入浴で気持ちよく過ごして頂く様に配慮している。入居者の皮膚の異常に気づいたら早期治療を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はソファにて傾眠されたり、横になられたり、テレビ見られたりと個々が心地よく過ごされている。下肢に浮腫ある方は挙上して頂いている。 夜間はP/WCを設置している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時はお薬の説明書を必ず頂き理解するようにしている。わからない場合は薬局に問い合わせ確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コミュニケーションをかねて皆で助け合い洗濯物を干したり、たたんだり個々の出来ることをすることで関わり合いの場を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	去年より日帰り温泉は近場に変更し継続している。普段浴槽に入れない方も温泉に入ってもらっている。誕生日には本人の希望を聞き、外食に出かけたりもしている。	職員は、法人内の会議へ出席の際に、その日の入居者の状況を判断して外出を促したり、かかりつけ薬剤師の処方薬の受け取りに出かけて入居者の気分転換を図り、身体的負担がない様に心掛けている。法事に出席の為の外出や家族との外出の機会を持てる様に言葉かけで支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に合わせ自己管理して頂き、他の方もホームで立替する等、ご家族と相談しながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、電話を通じて遠方の娘様、孫様、知人の方の声を聞くことで繋がりが見られる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先にも季節の花を植えたり、共有の空間には温度計、湿度計、次亜塩素酸水の噴霧器を設置し常時可動させ、快適に過ごせるよう支援している。	入居者の些細な行動も見守り可能な共用空間は、手作りの作品や行事の際の写真などを掲示してある。入居者は、職員の支援によってソファでテレビを視聴したり、ソファに横になり休息を得られている。共用空間の換気や快適温度に配慮して、入居者が外気浴や野菜作りをできる畑を設けて、収穫を楽しむ場として工夫している。。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファでは過ごす場所が決まっており、飲水の時間などは声をかけられる場面もみられる。入居者間のトラブルもなくゆったりと過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にテーブル椅子など置かれ、家族の方も面会時本人とゆっくり過ごされる環境を作っている。昔の写真、家族の写真なども飾っている。	各居室は、防災の暖簾で仕切り、衣装箆箆やテレビの他、畳を敷き入居者が寛げる様に配慮してある。職員は、各居室に入居者の家族の写真を掲示して、見当識に配慮した言葉かけの支援に心掛けている。ベッドの設置場所など耐震に考慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	壁新聞を掲示することで、家族も日頃の生活活動がわかり、生活動作全般がリハビリで能力に合わせた支援を行っている。		